

## メッセージアウトライン

### ヨハネ12：12~19「見よ。あなたの王が来られる」

「その翌日」…イエスがベタニヤに行かれた日の翌日のこと。日曜日と思われる。「過越の祭り」…主がエジプトでイスラエル人の家の門柱のかもいに塗ってある子羊の血を見て、その家の前を過越して行かれ、子羊の血を塗っていないエジプト人の家の人間や動物すべての初子が打たれて死に、そのことによってイスラエル人がエジプトを脱出したことを記念する祭り。→出エジプト12:1~14参照 祭りに来ていた大ぜいの人たちは、イエスがエルサレムに来ようとしておられると聞いて、しゅろの木の枝を取って出迎えのために出ていった。(12,13)彼らは皆イエスのうわさを聞いていたのである。ここで言う「しゅろの木」とは、なつめやしの木のことで、大きいものは高さ30<sup>ふた</sup>にもなる。その「枝」とは本当はその葉のことで、長さは2<sup>ふた</sup>にもなる。BC 2世紀にシリヤによるユダヤ教迫害の時、立ち上がったシモン・マカバイオスが戦いの後、完全にユダヤの独立を勝ち取った。そして彼のエルサレム入城にあたって人々は賛美としゅろの枝とをもって迎えたという記録がある。そして今、イエスのエルサレム入城に際して、人々がしゅろの枝を取り、賛美をもって迎えたのは、人々がイエスに解放者としての第二のシモン・マカバイオスの姿を見ていることにほかならない。

「ホサナ」…旧約聖書詩篇118:25の「主よ。どうぞ救ってください」の意味でイエスの時代にはもう「万歳」と同じように用いられた。当時のエルサレムの人々のイエスに対する期待がいかに大きなものであったかがわかる。

「イエスはろばの子を見つけて、それに乗られた」(14)→詳しくはマルコ11:1~7これは旧約のゼカリヤ9:9の預言の成就であった。(15)イエスは戦いの勇士や軍事的、政治的指導者として君臨するために来られたのではなく、「平和の王」としてその象徴である「ろばの子」に乗って来られたのである。このイエスを心から信じ受け入れる者は争いが止み、平和が訪れる。

このイエスがろばに乗ってエルサレムに入城されたことの意味は、その当時、弟子たちにはわからなかった。しかし後に、イエスが栄光を受けられてから、つまり十字架にかかられたその後になってから、これは旧約聖書に言われている預言の成就であったということに気がつく。(16)

イエスによるラザロの死よりの復活をベタニヤで見た人々は、一足先にエルサレムに行っており、そこで多くの人々にそのことの証しをしたために、人々はこぞってイエスを出迎えたのである。(17,18) この様子を見たパリサイ人(厳格な宗教者)たちはもうお手上げ状態であった。(19)

イエスは今までは自分を王にしようとする群衆から身を隠しておられたが、ついに定めの時が来たので、もう身を隠すことなく、白昼堂々と群衆の歓呼の声の中、エルサレムに入城された。それは群衆の思惑とは違って十字架へと進むためであった。神の御子イエスは私たちの罪を贖うためにエルサレムに入城された。ここに私たち人間に対する神の大いなる愛があらわされている。私たちもこのイエスを心の中に自分の王として迎え入れる時、本当の平安、本当の平和を持ち永遠に至る豊かな祝福にあずかることができる。恐れずに喜びと感謝をもって、イエスを自分の人生の主、また王として受け入れ従っていこう。

ヨハネ3:16~17, ローマ6:19~23